

**要** ハグロフトオビドロバチ



里山林などにすんでいます。よく似た仲間と同じように竹筒などに巣をつくり、ガの幼虫を運びこむと考えられています。くわしいことはわかっていません。

**要** オオハムシドロバチ



雑木林周辺にすむ、全身黒色で黄色い模様があるハチです。大型のハムシの幼虫を捕まえて運びますが、どのような巣をつくるかはわかっていません。

**要** ハラナガハムシドロバチ




林や草地にすみ、春から夏に見られます。ヨシの茎や細い竹筒の中に泥で固めた巣をつくり、巣にはハムシの幼虫を運びこんで、卵を産みつけます。

**魚類**  
A: 4種  
B: 12種  
要調査: 1種




**A** ヤリタナゴ



流れが緩やかな川や用水路などにすんでいます。ドブガイなどの大きめの二枚貝に管をさしこんで卵を産み、貝の中で子どもが育つという習性があります。

**A** ドジョウ



水田や水路などにすんでいます。細長い体に、10本の口ひげがあります。水の中の酸素が少ないときは水面の空気を吸って腸で呼吸することができます。

**要** フタモンアシナガバチ



河原や海辺にすみ、成虫は春から秋まで見られます。植物の陰や石のすきまなど雨のあたらないところに巣をつくり、集団で生活します。

**要** モンスズメバチ




林や神社の森などにすむスズメバチです。木の洞に巣をつくり、集団でくらしています。成虫はセミを好んで狩り、幼虫のエサとします。

**要** セツノアリバチ



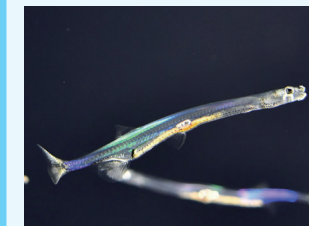
公園やお寺の森などにすんでいます。アリののような形をしたハチで、オスははねがあつて飛ぶことができますが、メスははねがなく飛ぶことはできません。

**A** チウガタスジシマドジョウ




流れの緩やかな川の中流から下流や用水路などにすんでいます。細長い体にしま模様があり、6本の口ひげがあります。川の改修工事などで数が減っています。

**A** シラウオ



川の水と海水が混ざる汽水域にすむ、小さくて細長い魚です。体は半透明で、骨や内臓が透けて見えます。春に川をさかのぼって卵を産みます。

**B** ニホンウナギ



海岸から川の上流まで広くすんでいます。日本から遠く離れた海で卵を産み、生まれた子どもはしばらく海をたどった後、川をさかのぼって成長します。

**要** シロオビハラナガツチバチ



草地や畑にすんでいます。成虫はいろいろな花を訪れて蜜を吸います。メスは土の中にいるコガネムシの幼虫に卵を産みつけます。

**要** シロスジギングチ



林やお寺の森などにすみ、木の穴に巣をつくり、成虫は夕方活発に活動し、いろいろなハエの仲間を捕まえて巣に運びます。

**要** サクラトゲアナバチ




海辺の砂浜にすみ、砂地に巣をつくり、春から夏にハマボウフウの花で見られます。成虫はハエの仲間を捕まえて、巣に運びこみ、卵を産みつけます。

**B** ギンブナ




ため池や水路などの流れの緩やかな場所にすんでいます。藻や水の中の虫など、いろいろなものを食べます。メスだけで子どもを増やせることがわかっています。

**B** ヌマムツ



川の中流から下流の流れの緩やかな場所に多い魚です。川の上流側にすむカワムツとよく似ていて、20年ほど前までは同じ種とされていました。

**B** カマツカ



川の中流から下流や水路などの、底に砂の多い場所を好みます。いつも水底にいて、砂の中の虫などを食べ、敵がくると砂に潜って隠れます。

**要** ニッポントゲアナバチ



海辺の砂浜にすみ、春から夏に活動します。砂地に穴を掘って巣をつくり、成虫はハエやユスリカの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

**要** アカアシハヤバチ



里山林にすみ、地面に穴を掘って巣をつくり、成虫はバッタやキリギリスの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

**要** ヤマトスナハキバチ



海辺の砂浜にすみ、砂地に穴を掘って巣をつくり、成虫は小さなセミの仲間のヨコバイを捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。



明石いきものコラム

**ギンブナとヘラブナ**

明石市レッドリストでカテゴリーBとされているギンブナ。実は全国的にはそれほど珍しい魚ではありません。むしろどこにでもたくさんいるのでは?と思う方もいるかもしれません。なぜ明石市ではギンブナが減っているのでしょうか。

原因は、釣りをする人などが池に放す「ヘラブナ」です。ヘラブナはもとはゲンゴロウブナという種類で、琵琶湖や淀川にしかいない魚でした。ギンブナよりもヘラブナのほうが、おなかから背中幅(「体高」といいます)が大きいという特徴があります。もともとギンブナと近い種類なので、放流されたヘラブナがギンブナのすみかをうばうことになり、ギンブナが減ってしまったのです。

人の手によって生きものを放すときには、もともとそこにくらす生きもののかをよく考える必要があります。



### B イトモロコ



川の中流から下流とそれに続く水路において、水底近くを群れで泳いでいます。体の真ん中を通るうろこは他より大きく、黒い斑点があり、全体に黒い線に見えます。

### B コウライモロコ



川の中流から下流とそれに続く水路において、流れの緩やかな砂や石の底を好みます。川と農業用水路を行ったり来たりして生活します。長めの口ひげがあります。

### B アユ



大人のアユは川の上流から中流にすんでいます。秋に生まれた子どもは海まで流されて冬をこし、春に川をさかのぼって、1年で一生を終えます。

### B ミナミメダカ



川や池、田んぼ、水路などの、流れが緩やかで水草の多い場所にすんでいます。浅いところで水面近くを群れで泳ぎ、プランクトンなどを食べています。

### B カワアナゴ



川の下流から海の近くまでいます。昼間は石や流木などの隠れ場が多いところに潜んでいて、夜に活動します。体の色は周りの色に合わせて変わります。

### B ミミズハゼ



ミミズのような細長い体で、川の中流から河口の石や砂利の隙間に潜んでくれています。川で生まれた子どもは海に下り、少し大きくなると川に戻ってきます。

### B ウキゴリ



川の中流から海の近くまでの流れの緩やかなところにいます。川底の石の下にぶらさがるようにたくさんの卵を産み、生まれるまでオスが卵を守ります。

### B ゴクラクハゼ



川の下流から海の近くまでの砂底において、砂や小石の間を泳いで小さな虫などを食べています。石の下の卵をオスが守り、生まれた子どもは海へ下ります。

### 要 カネヒラ



川や水路などの流れの緩やかな場所にすむ、体長 12cm ほどの大型のタナゴの仲間です。イシガイなどの二枚貝に卵を産み、貝の中で子どもが育ちます。

### 要 オナガアゲハ



森や林にすみ、春から夏に見られます。日当たりのよい林道沿いを活発に飛び、ツツジなどの花で蜜を吸います。幼虫はミカンの仲間の葉を食べて育ちます。

### 要 ツマキチョウ



林やその周囲の草地にすんでいます。成虫は春先にはのみ見られ、オスのはねの先は黄色くとがっています。幼虫はタネツケバナの葉を食べます。

### 要 ツマグロキチョウ



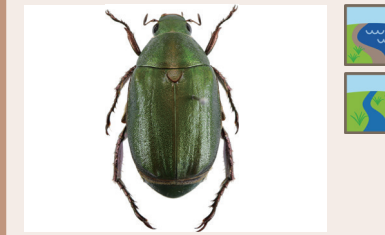
河川の堤防や畑の周りの明るい草地にすんでいます。成虫のまま冬を越し、春から秋まで見られます。幼虫はマメ科のカワラケツメイなどを食べます。

### 要 スジグロシロチョウ



林や草地にすみ、春から秋に見られます。成虫は草地上をゆっくりと飛び、タンポポなどの花で蜜を吸います。幼虫はアブラナの仲間の葉を食べて育ちます。

### 要 ヤマトアオドウガネ



河川敷や海沿いに多くすみ、成虫は初夏から夏に見られます。成虫は全身緑色で丸っこい形をしていて、樹木の葉を食べて生活していると考えられます。

### 要 シロスジコガネ



海辺のマツ林などにすみ、成虫は夏に見られます。茶色の体に白いたて線模様が目立つ大きなコガネムシです。幼虫は砂地の中で植物の根を食べます。

### 要 ヒゲコガネ



大きな河川敷などにすみ、夏に見られます。成虫は茶色の体に白い斑点があり、オスの触角（ヒゲ）は先が大きく広がります。幼虫は砂地で生活しています。

### 要 ヘイケボタル



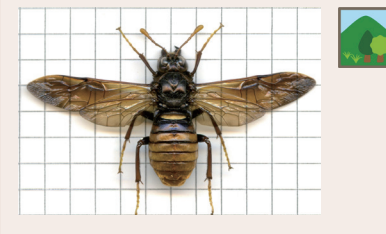
田んぼや湿地にすむ小型のホタルです。成虫は初夏から夏に見られ、夜には小さな光を点滅させます。幼虫は水の中にすみ、マキガイの仲間を食べて育ちます。

### 要 ホシアシブトハバチ



山沿いのエノキの周辺にすんでいます。オレンジ色の体に黒い斑点がある大きなハバチです。成虫は春に見られ、幼虫はエノキの葉を食べて育ちます。

### 要 キイロモモフトハバチ



森や林にすみ、成虫は春に見られます。体が黒色から茶色の大きなハバチです。幼虫はハンノキの葉を食べます。地面の近くで集団でまゆをつくります。

### 要 ホシセダカヤセバチ



森や林にすみ、成虫は春から夏に見られます。体は黒くおなかのつけねに黄色い斑紋があります。メスは長い産卵管でカミキリムシの幼虫に卵を産みつけます。

### 要 ケブカスジドロバチ



公園や民家の周辺にすみ、春から秋に見られます。コンクリートや石の隙間に泥で固めた巣をつくります。ガの幼虫を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

### 守りたい 田んぼとため池

明石市にたくさんあるため池ですが、その数は年々減ってきています。1971年に473あったため池は、2005年には111に減りました（明石市教育委員会『明石のため池』より）。田んぼでの米作りのために作られたため池は、田んぼが減るとともに役目を終え、埋め立てられてきたのです。

田んぼやため池、水路、周りの草地は、お互いにつながりあって、たくさんの生きものたちのすみかとなっています。水の中にはいろいろな種類の水草が生え、ドジョウやタナゴにメダカ、カエルやその子どものオタマジャクシ、トンボの子どもでもあるヤゴ、ヒメタイコウチなどの昆虫がくらしします。田んぼの畦には明るい草地の植物が、ため池の周りには湿地に生える植物が育ちます。全国的に田んぼやため池が減るにつれて、これらの生きものたちも、数が減ってきています。中には絶滅が心配されているものも少なくありません。

大切な明石の生きものたちとそのすみかを、みんなで守っていききたいですね。

### 明石いきものコラム



ため池の風景